十人十色

2021・12
縄瀬　保育園
池之上　俊江
NO．14

「遊びと学びの発表会」を終えて

発表会へのご参加ありがとうございました。舞台上で演じた子ども達の表情は緊張していましたが、楽しんでいたように感じました。保護者の方々からも「堂々としていた。」「ニコニコしてみんな楽しそうだった。」とありがたいお言葉をお聞きしました。挨拶の中で、少しお話しましたが、発表会へ向けての練習はしておりません。子ども達が今、夢中になっている遊びを担任が構成しています。２歳児は、日頃から楽しんでいるわらべ歌を笑顔で披露できました。ひまわり組は、それぞれの特技を演じ、発表会が終わってからも、遊びは途切れず、今日も朝から、こまやけん玉に夢中の子ども達です。遊びの延長だからこそ無理なく行事に参加できます。３歳児の男の子が発表を終え、舞台から帰ってきて職員に「発表会すご～く楽しかった！！」と笑顔で語っていたそうです。その話を聞いて、本当に嬉しかったです。当園ではありませんが、行事が近づくと、「園へ行きたくない！」と泣いて訴える子どもがいると耳にする事がありますが、とても心苦しく思います。それは楽しいはずの「遊び」の時間が練習で削られる日々が続くからで、日常の「遊び」の時間を保障すれば、行事に楽しんで参加できるはずです。ですから、行事の為に日常の遊びの時間を疎かにするのではなく、子どもの主体的な遊びが常に中心である保育を、今後も続けていきたいと思います。

経験が遊びへ

地域の方々よりお米やもち米を沢山頂きました。散歩へ行けば、田んぼや畑で作業している方が、園児達に声をかけて下さいます。毎日食べるお米がどのようにできるのか？田植え、稲刈りと見た経験が遊びへと発展します。数カ月前から、ソフトブロックコーナーで４歳児の男児数名が乗り物作りに夢中でした。稲刈りの見学後も子どもが、乗り物を作っていたので、「すごいのができたね」と声を掛けると「これ、コンバインだよ」と、特徴をとらえて表現していました。コンバインを、こんなに忠実に再現できるのは、おそらく縄瀬の子だからだろう！と感心しました。田畑に囲まれ、トラクターやコンバインをよく目にする環境だからこそ表現できるのだろうと思います。隣にいた N さんに「すごいよね。コンバインだって！」と話すと、「でもさ・・コンバインは１人しか乗れんよね。」と呟く N さん。よく見ると、作ったコンバインには３人の男児が乗っていました。N さんは、自宅で田植えや稲刈りの様子を見る機会があるので特徴を他の子よりも細かく捉えていたのでしょう。N さんの言葉に男児３人は「そうなんだ１人乗りなんだ」と、新たな情報をもらい、遊びが続いていました。3・4・5 歳児という小さな社会の中で様々な情報を交換し合い、刺激し合いながら、更に現実化した遊びへと発展していきます。このように集団生活の中で、子ども同士が話し合い・学ぶ(アクティブ・ラーニング)の時間を大切にしていきたいと思います。

待てる存在

発表会で自分の特技を紹介しましたが、遊びに興味を持つ時期はそれぞれです。みんながけん玉をしてるからやろう！と誘っても自分の意志でない事は長続きしないでしょう。子どもは、遊びに参加していなくても友だちがやっている姿をみて、心の中で参加しています。これを「周辺参加」といい、自分にできるか？と挑戦できる時期を見定めているのです。ソファーでゆっくりしている時間も子どもにとっては大切な遊びの時間です。一人ひとりブームが違うからこそ、教え合うことができます。お子さんが自分の意志で動き出すまで、近くで見守れる存在でありたいと思っています。